

高槻市営駐車場経営方針

団 体 名 : 高槻市

事 業 名 : 駐車場事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

1. 策定の背景

地方公共団体が経営する駐車場事業などの公営企業(地方公営企業法非適用含む。)においては、将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが可能となるよう、総務省から令和2年度までに中長期的な経営の基本方針の策定が求められている。

本市においては、市街地の駐車場需要を満たすことを目的に市営駐車場を整備し、駐車場不足の解消や違法駐車をなくし、安全で快適な道路環境の維持に努めてきた。しかしながら、近年では、民間駐車場の整備が進むことで違法駐車が減少し、市営駐車場の必要性が低下していることから、市営駐車場の在り方について見直しが必要となっている。また、市営駐車場の老朽化が進み、計画的な維持修繕が必要となるが、今後も人口減少や少子高齢化に伴い大幅な歳入の増加が見込めず、健全経営が課題となっている。このような状況の中、将来にわたって安定的に駐車場サービスを提供していくためには、経営基盤の強化と財務マネジメントの向上に取り組む必要がある。

そこで、利用者の安全と利便性を確保しつつ、安定的な経営の継続に向けて、今後10年間の経営方針を策定するものである。

2. 事業概要

(1) 事業形態及び施設概要

法適(全部適用・一部適用)非適の区分	法非適	事業開始年月日	昭和54年
職員数	1人(兼務)	施設名	①弁天駐車場 ②高槻駅南立体駐車場 ③桃園町駐車場 ④高槻駅北地下駐車場
民間活用の状況	指定管理者制度(徴収委託)		

①弁天駐車場 ※令和3年3月末をもって廃止

構造	鉄骨造(自走・立体)	立地	その他
建設後の経過年数	41	駐車場使用面積	7,052.30㎡
収容台数	【自動車】310台 【自転車・原付・自二】220台	営業時間	6時~23時
料金体系	一時	【自動車】100円/20分(夜間600円) 【自転車】150円(昼間80円) 【原付】300円(昼間150円)	【自二(小型)】300円 【自二(中型)】400円 【自二(大型)】500円
	定期	【自動車】全日22,000円、昼間14,700円 【自転車】(一般)1ヶ月2,100円、3ヶ月6,000円 (学生)1ヶ月1,300円、3ヶ月3,600円 【原付】1ヶ月3,700円、3ヶ月10,500円 【自二(小型)】1ヶ月4,200円、3ヶ月12,000円 【自二(中型)】1ヶ月5,300円、3ヶ月15,000円 【自二(大型)】1ヶ月6,300円、3ヶ月18,000円	

②高槻駅南立体駐車場

構 造	鉄骨・鉄筋コンクリート造 (機械式)	立 地	駅
建設後の経過年数	25	駐車場使用面積	316.66㎡
収 容 台 数	150台	営 業 時 間	6時～23時
料金体系	一 時	100円/20分(夜間600円)	
	定 期	全日26,200円、昼間17,800円	

③桃園町駐車場

構 造	鉄骨造 (自走・立体)	立 地	その他
建設後の経過年数	29	駐車場使用面積	3,737.12㎡
収 容 台 数	177台	営 業 時 間	8時～22時15分
料 金 体 系	100円/20分(夜間600円) ※一時利用のみ(庁舎利用者への割引サービスあり)		

④高槻駅北地下駐車場

構 造	鉄骨・鉄筋コンクリート造 (自走・地下)	立 地	駅、商業施設
建設後の経過年数	16	駐車場使用面積	16,263.49㎡
収 容 台 数	441台	営 業 時 間	7時～24時30分
料金体系	一 時	100円/20分(夜間600円)	
	定 期	全日26,200円、昼間21,000円	

(2) 現在の経営状況

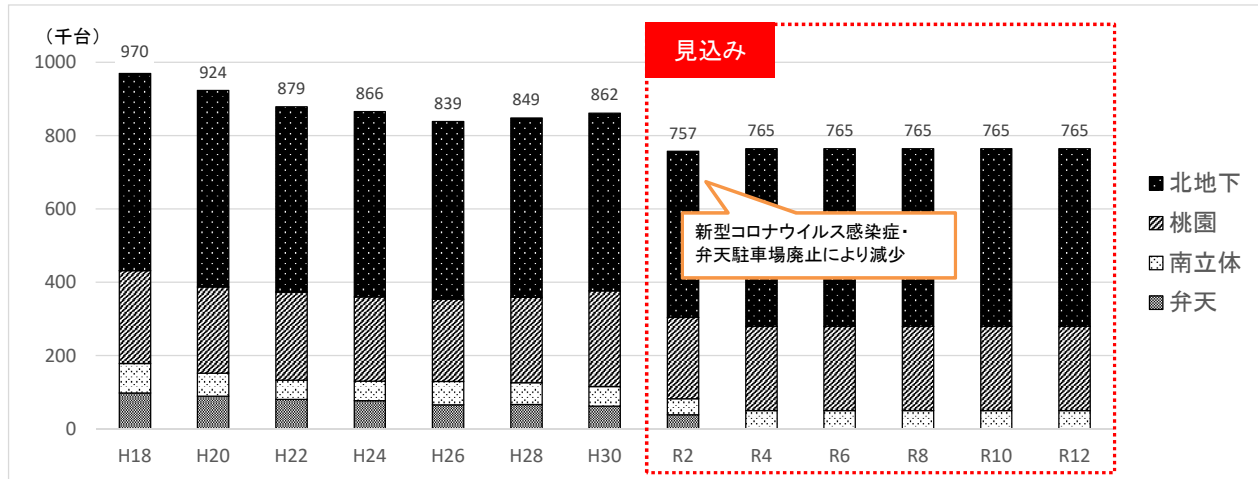
弁天駐車場	<p>利用台数の約9割を定期利用が占めており、他の駐車場と比較すると割合が著しく高く、一時利用が少ない状況にある。このため、稼働率についても、構造及び立地が同等の他自治体の施設(以下「類似施設」という。)の平均値の半分以下である。このような利用状況から、本来の目的である違法駐車対策としての役割は終えていることや、耐震基準を満たしていないことに伴う耐震改修や建替えに多額の費用を要する状況にあるため、令和3年3月末をもって廃止解体工事を行う。なお、解体工事に係る費用を特別会計にて負担することとなっている。</p>
高槻駅南立体駐車場	<p>機械式の駐車場であることから、自走式駐車場と比較すると車の入出庫に時間を要するなど、稼働率が100%を上回っているものの類似施設の平均値を3割程度下回っており、収支は赤字となっている。利用の大部分は一時利用が占めており、近隣にいくつかの商業施設が立地しているものの一時利用の台数が減少傾向であることに加え、今後は設備の維持補修に伴う修繕コストの増加が懸念される状況である。</p>
桃園町駐車場	<p>経営状況として収支は黒字であり、市役所に隣接しているという立地条件から、利用の大部分は市役所への来庁者が占めている。利用状況については、平日の市役所の開庁時間帯は多くの利用がある一方で、土日祝など市役所の閉庁日には利用が少ないが、稼働率は類似施設の平均値の倍以上となっている。</p>
高槻駅北地下駐車場	<p>経営状況として収支は黒字であり、利用者の大部分は隣接商業施設や駅の利用客であることから駐車需要も高く、稼働率についても300%を超えており、類似施設の稼働率180%を大きく上回っている。支出面では、設備の維持補修や修繕積立金、公債費の償還に毎年一定の額を要するが、これらを勘案しても当該施設は収益性が非常に高い状況にある。なお、当該施設の建設に係る償還金については令和8年3月末に完済予定である。</p>

※ 各施設の詳細については、経営比較分析表(別紙1～4)のとおり

2. 将来の事業環境

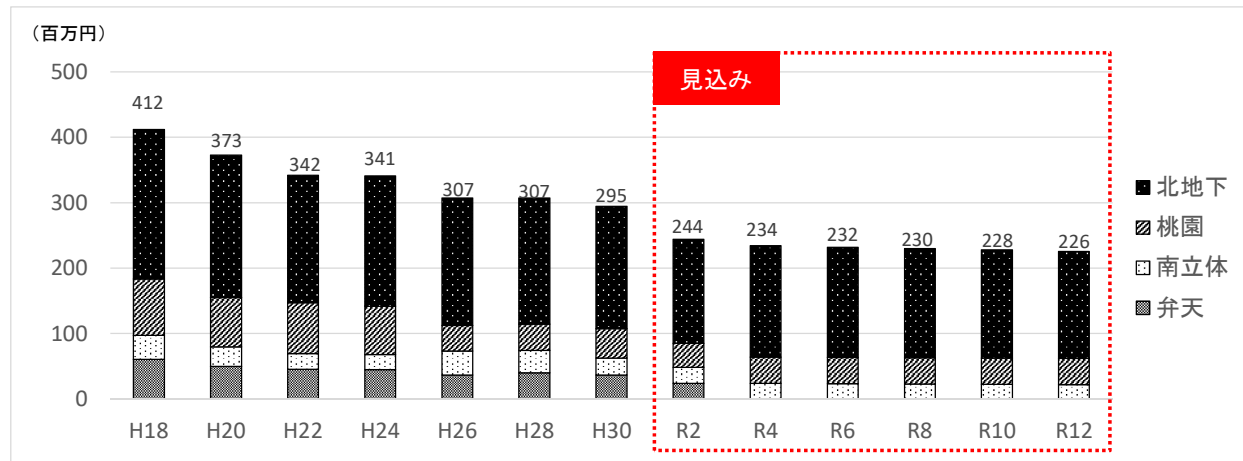
(1) 駐車場需要の見通し

令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により、台数が例年と比較して大幅な減となり、令和3年3月末で弁天駐車場が廃止となるため、市営駐車場全体の利用台数が減少する。また、近隣の商業施設等に変化はないことから、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症による減少分が回復し、横ばいで推移していく見通しである。



(2) 料金収入の見通し

料金収入については、1台当たりの駐車時間が減少しているため、年々減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により駐車台数が減少したことと重なり、令和2年度については大幅な減となっている。令和3年度以降については新型コロナウイルス感染症による減少分が一定回復すると考えられるが、弁天駐車場の廃止や生活様式等の変更の影響を受け、令和元年度の料金収入までは回復せずに減少していく見通しである。



(3) 施設の見通し

●高槻駅南立体駐車場(平成8年6月供用開始)

機械式の立体駐車場であることから、立体駐車装置の部品の老朽化によって大きな事故にもつながる可能性が高いため、老朽化した部品については計画的に修繕を行っていく。また、施設の特長上、車両の搬入搬出の際に管理人が機械を操作する必要があり、管理経費が高額であり収支が赤字であることから、駐車場の在り方の検討を行う予定である。

●桃園町駐車場(平成3年2月供用開始)

エレベーターの更新や屋上防水工事など大規模修繕は実施済みであることから、計画期間中において大規模な修繕は発生しない見込みである。立地としては、市役所に隣接する駐車場であり、市役所来庁者にとって必要であることから、今後も管理運営していく。

●高槻駅北地下駐車場(平成16年2月供用開始)

在車検知カメラ等の管制設備をはじめ、老朽化している設備が見受けられるため、計画的に修繕を行っていく。また、管理費・修繕積立金が増加することが見込まれるため、収支状況について注視していく。

(4) 組織の見通し

現在は指定管理者制度(徴収委託制)による管理運営を行っており、今後についても指定管理者制度を活用した管理運営を行っていく予定であることから、職員数については令和2年度現在の市の職員1人(兼務)を継続する見込みである。

3. 経営の基本方針

指定管理者制度により適正な管理運営に努めるとともに、長期修繕計画に基づく計画的な修繕を行うことで、事業費を平準化し安定経営を維持していく。また、近年コインパーキング等の民間駐車場が整備されていることから市営駐車場としての必要性が薄れてきており、今後は駐車場の統廃合に加え、民間による経営が可能な場合には、民間への貸付け等を検討し、施設管理の適正化を図っていく。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙5のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目	標
	長期修繕計画に基づき施設の修繕や更新の時期を的確に把握することで、事業費の平準化を図る。

施設全体として、建設後一定の年数が経過していることから、老朽化した箇所については毎年一定の修繕を行う。また、小規模な修繕については、市と指定管理者で協議しながら、適切に行っていく。なお、施設ごとの詳細な投資計画については以下のとおりである。

●高槻駅南立体駐車場

立体駐車装置が老朽化していることから、事故等の未然防止を目的として計画的に修繕を行う。

●桃園町駐車場

エレベーターの更新や屋上防水工事など、必要な大規模修繕は実施済みであることから、計画期間中において大規模な修繕は発生しない見込みである。

●高槻駅北地下駐車場

在車検知カメラをはじめとする管制設備や空調設備等について、老朽化が見受けられるため、計画的に修繕を行う。

② 収支計画のうち財源についての説明

目	標
	利用者からの使用料を財源とした経営を引き続き行う。また、指定管理者制度の導入により、民間のノウハウを活用することで経費の節減等を図るとともに、安定経営に努める。

●指定管理者制度(徴収委託制)による管理運営を想定しており、利用者からの使用料を主な財源としている。

●使用料については、現行の料金体系を継続する。

●使用料以外の収入については、行政財産の目的外使用に係る使用料等を計上している。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

●投資以外の経費について、主なものとしては高槻駅北地下駐車場においては、商業施設(アクアモール)内にあり、区分所有者として支払う管理組合への負担金(管理費・修繕積立金)が挙げられる。また、令和3年度には、令和3年3月末をもって廃止する弁天駐車場の解体工事を行うことから、工事請負費を見込んでいく。

●高槻駅北地下駐車場については建設費用を起債していることから、地方債の元金及び利子の償還を行っている(令和8年3月末完済予定)。なお、今後は新たな地方債の起債は行わない予定である。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

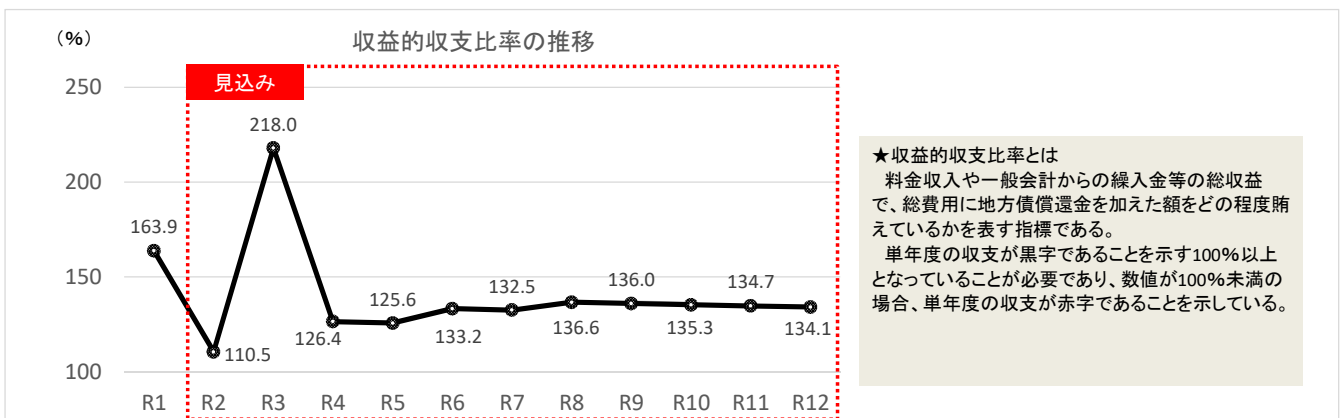
民間活用	指定管理者制度(徴収委託制)による管理を引き続き行う。また、その他の民間活用の手法についても併せて検討を行っていく。
駐車場の配置の適正化	周辺の駐車場需要を勘案し、統廃合を含めた市営駐車場の在り方について検討を行う。
投資の平準化	長期修繕計画に基づき施設の修繕や更新の時期を的確に把握することで、事業費の平準化を図る。
その他の取組	—

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	現行の料金体系を継続する。
利用者増加に向けた取組	毎年実施している利用者アンケートにより利用者のニーズを把握し、指定管理者と協力の上、利用者サービスの向上を図る。
企業債	—
繰入金	—
資産の有効活用等による収入増加の取組	行政財産の使用許可等により、収入増加の検討を行う。
その他の取組	令和3年度については、弁天駐車場解体工事に伴う負担金や弁天駐車場用地売却による収入を予定している。

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	—
管理運営費	—
職員給与費	—
その他の取組	駐車場施設自体の更新・大規模改修の金額を現在の方針では見込んでいないため、経営方針の改訂の際には施設自体の更新等を含めて検討する。



5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	高槻駅南立体駐車場及び高槻駅北地下駐車場は、駅前の中心市街地に立地し、駅の利用者や近隣商業施設等の駐車場として機能しており、駅前の違法駐車を抑制することで道路交通円滑化に寄与している。 また、桃園町駐車場は利用者の大半が市役所の来庁者であることから、市役所駐車場としての機能を有している。
公営企業として実施する必要性	道路交通の円滑化に寄与しているが、近年、コインパーキング等の民間駐車場が整備されていることから、市が行う意義は薄れている。そのため、今後は利用状況等を注視する中で駐車場の統廃合に加え、民間での経営が可能な場合には、民間への貸付け等による事業実施も視野に入れた検討を行う必要がある。

6. 経営方針の事後検証、改定等に関する事項

経営方針の事後検証、改定等に関する事項	指定管理者の更新時や市営駐車場の在り方検討の結果等により経営方針の見直しを行う予定である。また、毎年度の決算により、後年に影響が生じる見直しが必要となった場合には、適宜見直すこととする。
---------------------	---

経営比較分析表（令和元年度決算）

大阪府高槻市 高槻市営弁天駐車場

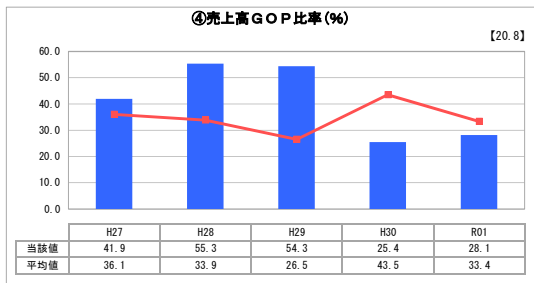
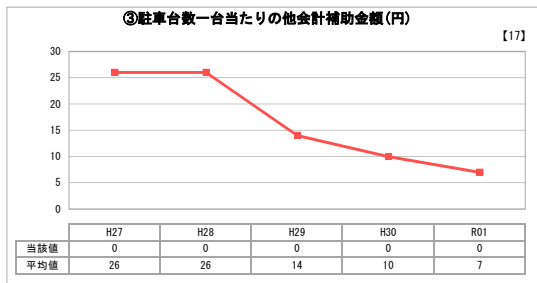
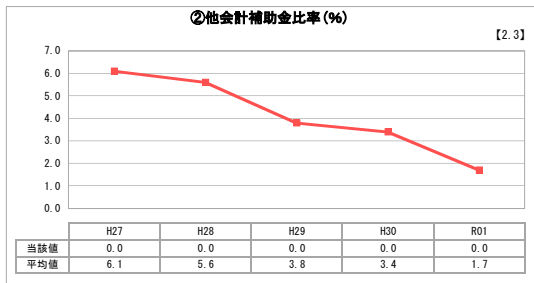
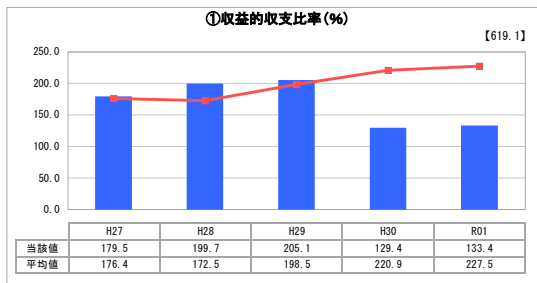
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	立体式	40	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
無	無	7,052
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
310	300	代行制

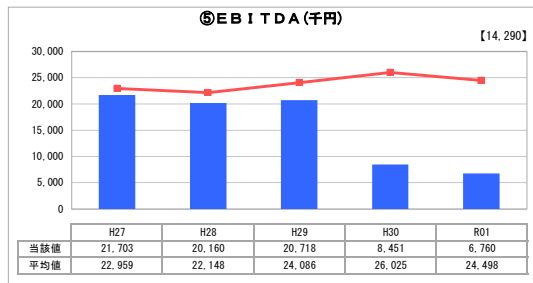
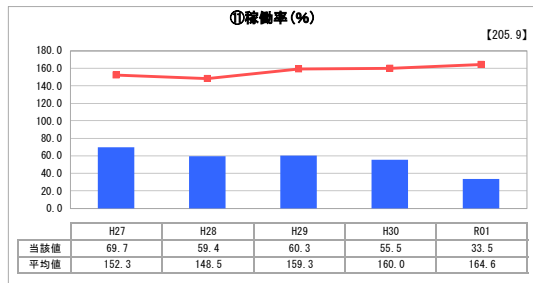
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



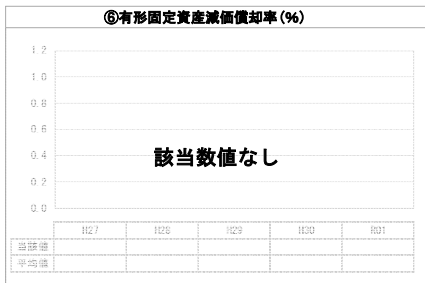
分析欄

1. 収益等の状況について
 当該施設は黒字経営が続いており、修繕を最小限にするなど営業コスト圧縮により、平成27年から平成29年までは売上高GOP比率が類似施設平均値を大きく上回っていた。しかしながら、平成30年度については、大阪府北部地震の影響で修繕料が増加したことにより、売上高GOP比率が減少した。また、令和元年度については大口定期契約の解約があったことから、歳入が大幅な減となり、結果として売上高GOP比率が減少した。
 一方で、EBITDAについては当該施設の稼働率が低く、それに伴い収益性も低いことが要因となり、類似施設平均値を下回っていると考えられる。

2. 資産等の状況について
 当該施設敷地の地価については、周辺と比較しても大きな差はあまりない。
 また、今後の設備投資についても大きな修繕は見込んでいないが、当該施設は耐震基準を満たしておらず、耐震改修をする場合には多額の費用を要する状況にある。

3. 利用の状況について
 当該施設の稼働率は、類似施設平均値や他の市営駐車場3施設の稼働率を大きく下回っていることから、駐車需要は低く、収容台数が過大である。なお、近隣にはコインパーキングが複数あることから、稼働率減少の要因の一つとして考えられる。
 また、利用者の大部分は定期利用が占めている。

2. 資産等の状況

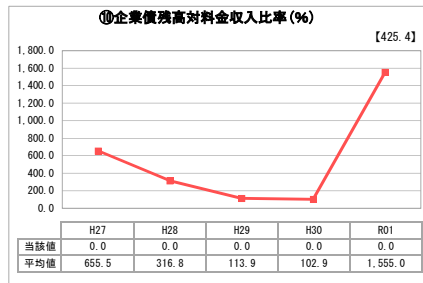


⑦敷地の地価(千円)

164

⑧設備投資見込額(千円)

0



全体総括
 当該施設の経営状況は黒字経営であるが、平成30年度以降については、売上高GOP比率が減となった。
 当該施設は、鉄道駅からも徒歩圏内の場所に立地しているが、利用者の大部分を定期利用が占めており、本来の目的である違法駐車対策としての役割は終えていることや、耐震基準を満たしていないことに伴う耐震改修や建替えに多額の費用を要する状況にある。そのため、令和3年3月末をもって廃止とすることを決定した。

経営比較分析表（令和元年度決算）

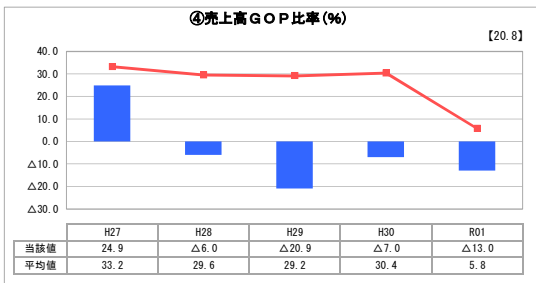
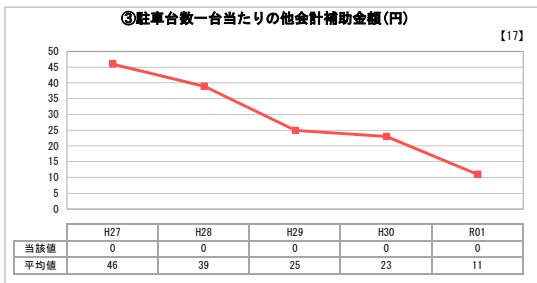
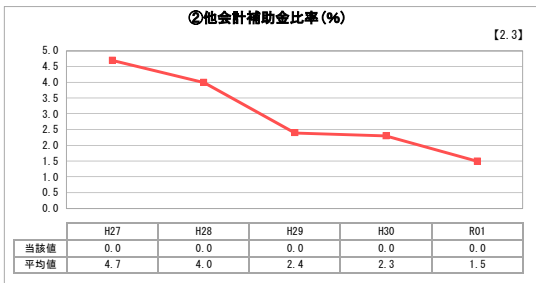
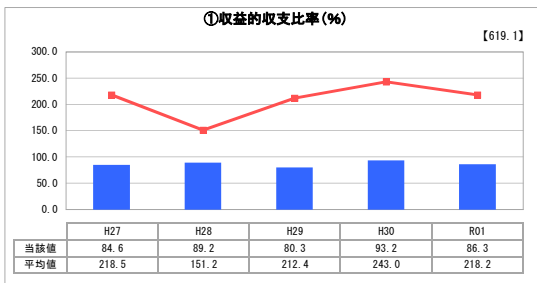
大阪府高槻市 高槻市営高槻駅南立体駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 1 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	附置義務駐車施設 その他駐車場	立体式	24	

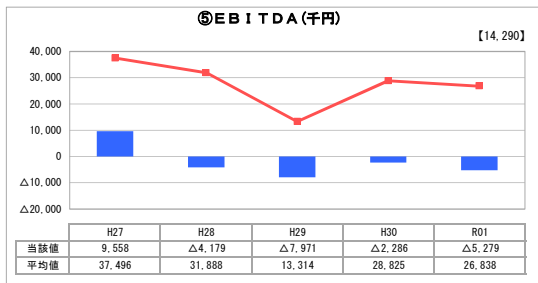
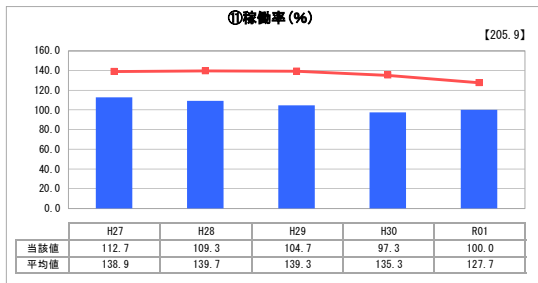
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	2,250
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
150	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
—	令和元年度全国平均

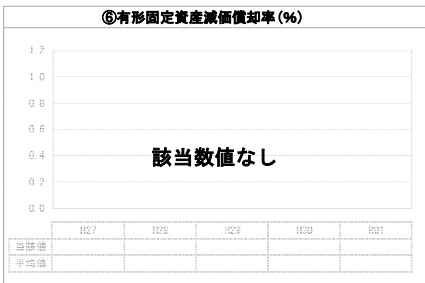
1. 収益等の状況



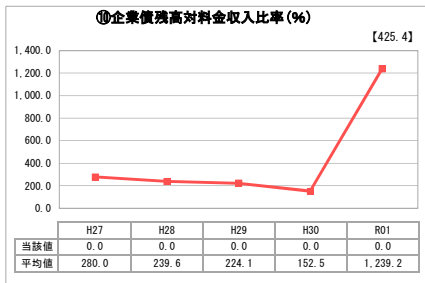
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑦敷地の地価(千円)	281
⑧設備投資見込額(千円)	100,000



分析欄

1. 収益等の状況について
 当該施設は、歳入の約半分が特定の商業施設への回数券販売に依存している。
 また、京都市や大阪市などの大型商業施設のパークアンドライド駐車場としてもPRするなど歳入の確保に努めてきたが、依然として収益的収支比率が100%を下回っており、赤字経営となっている。

2. 資産等の状況について
 当該施設は平成26年度に企業債を完済したが、機械装置は法定耐用年数の10年を超過しており、従前は保守点検に基づきその都度修繕を行ってきた。修繕コストの平準化を目的に平成28年度より機械装置の長期修繕計画を策定したところ、今後は毎年少なくとも約1,000万円の修繕コストが必要なことが判明している。このほか、二酸化炭素消火設備の更新期限が迫っていることから、令和2年度には当該設備の更新業務も行う予定である。

3. 利用の状況について
 当該施設は、稼働率が類似施設平均値を下回っていることから、他施設に比べて駐車需要が低いと考えられる。
 また、近隣にいくつかの商業施設が立地していることから、利用の大部分は一時利用が占めている。

全体総括
 当該施設の現在の経営状況としては、利用台数が減少傾向であることに加え、今後は設備の維持補修に伴う修繕コストの増加が懸念される。今後の経営改善策として、機械装置の老朽化による修繕コストを平準化するための長期修繕計画を策定したが、今後も赤字経営が見込まれ、本市の他の市営駐車場3施設と比べても厳しい経営状況である。そこで、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、周辺の駐車需要を分析し、統廃合を含めた施設あり方を検討していく。

経営比較分析表（令和元年度決算）

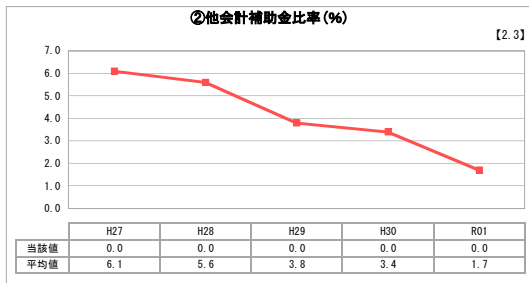
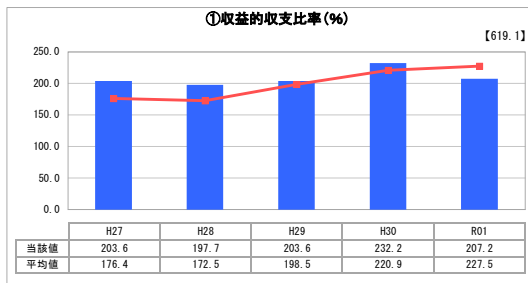
大阪府高槻市 高槻市宮桃園町駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	立体式	28	

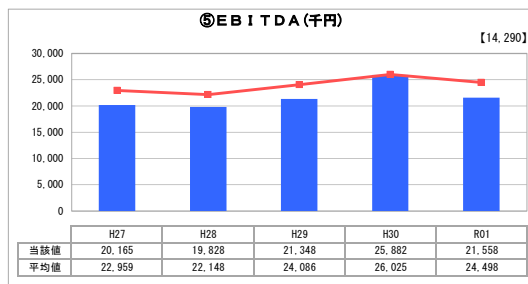
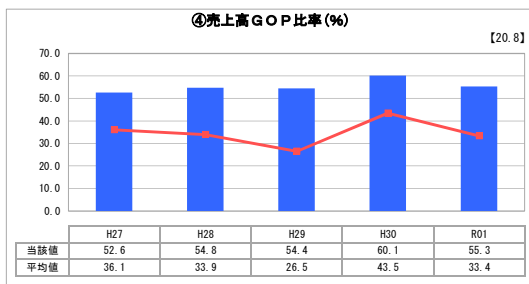
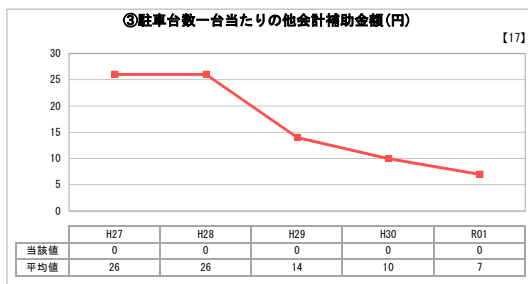
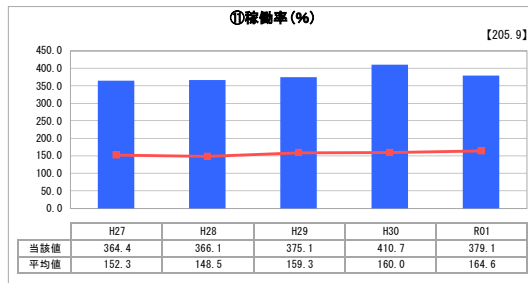
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	3,737
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
177	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

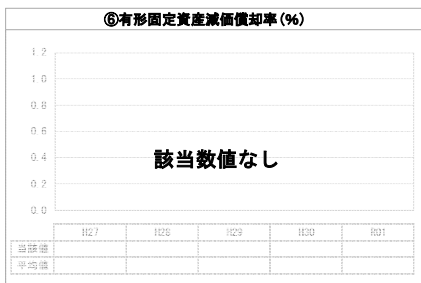
1. 収益等の状況



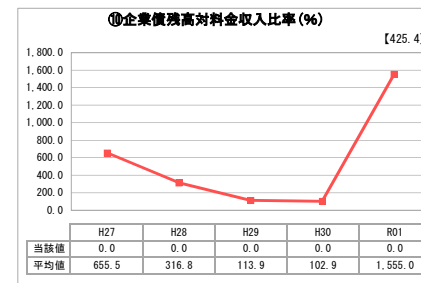
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑧敷地の地価(千円)	144
⑨設備投資見込額(千円)	15,226



分析欄

1. 収益等の状況について
当該施設は、市役所に隣接しているという立地条件から来行者による短時間利用が多い。

2. 資産等の状況について
当該施設敷地の地価については、周辺と比較しても大きな差はあまりない。
設備投資については、平成27年度及び平成28年度に躯体に係る維持修繕を実施した。また、令和2年度には昇降機の大規模改修を予定している。

3. 利用の状況について
当該施設は稼働率が類似施設平均値を大きく上回っており、この要因としては市役所に隣接しているという立地条件から、来行者による短時間利用が多いことによるものである。また、平成30年度については、大阪府北部地震の影響により確認証明等の手続きで来行者が増加し、結果として当該施設の利用台数が増加した。

全体総括
当該施設の経営状況としては黒字であり、概ね全国の類似施設と同程度の経営状況である。当該施設の利用の大部分は市役所への来行者であり、稼働率に関しては、平日の市役所の開庁時間帯は多くの利用がある一方で、土日祝など市役所の閉庁日には利用が少ない。
設備投資については、平成27年度及び平成28年度に舗装等の躯体に係る維持修繕を実施した。また、令和2年度には昇降機の大規模改修を実施予定であるが、そのほかには特に大きな修繕は予定していない。
立地条件や利用状況から今後も駐車場としての存続が望ましいことから、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、収支状況を注視しながら、施設のあり方を検討していく。

経営比較分析表（令和元年度決算）

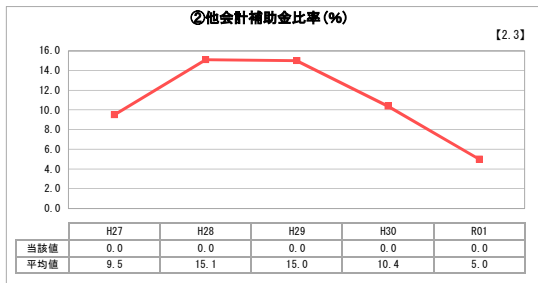
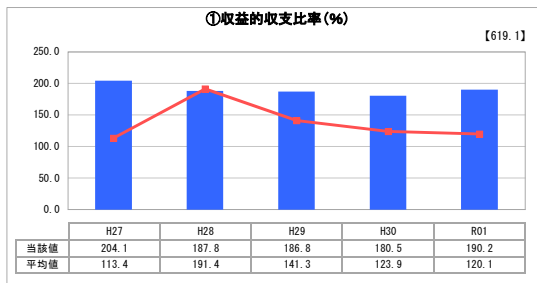
大阪府高槻市 高槻市営高槻駅北地下駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	地下式	15	

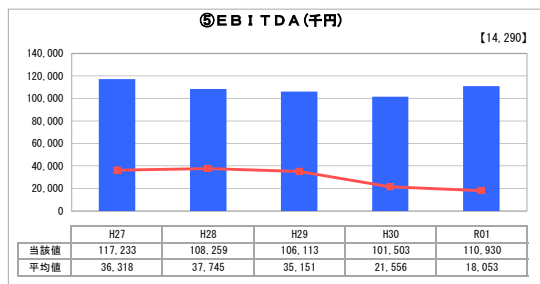
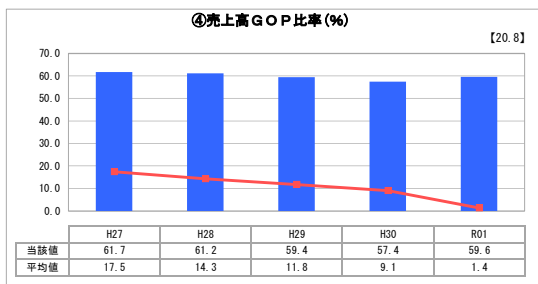
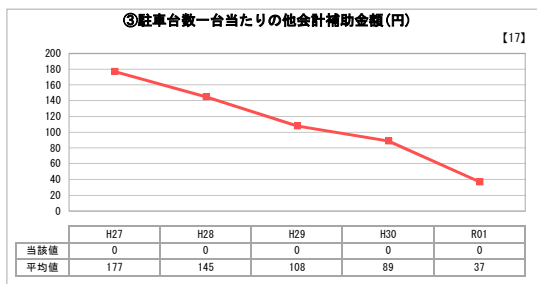
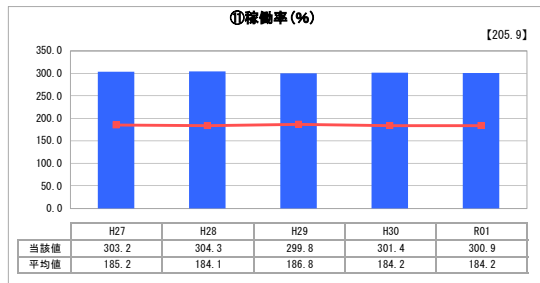
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
商業施設	無	16,263
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
441	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
□	令和元年度全国平均

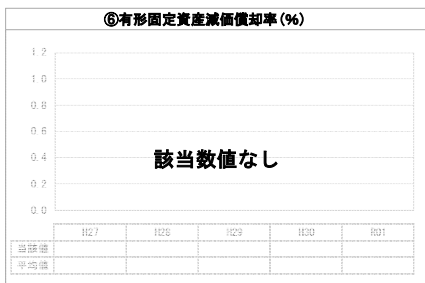
1. 収益等の状況



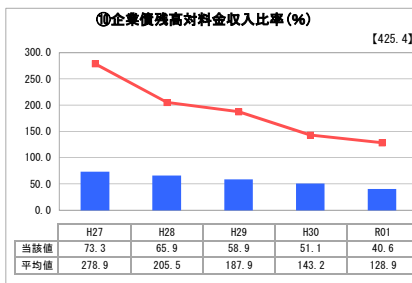
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑧敷地の地価(千円)	383
⑨設備投資見込額(千円)	57,684



分析欄

1. 収益等の状況について
 当該施設は、収益的収支比率、売上高GOP比率及びEBITDAが類似施設平均値よりも高く、収益性の高い施設である。

2. 資産等の状況について
 経年劣化により駐車場スラブにクラックが発生しているため、それらの補修を事後保全的に修繕している。
 また、換気設備や管制設備についても老朽化していることから、計画的に修繕を行うことで長寿命化を図っていく。

3. 利用の状況について
 当該施設は、稼働率が類似施設平均値を大きく上回っており、この要因としては駅や商業施設と直結した場所に立地しているという条件によるもの大きいと考えられる。
 また、このような立地条件からも駐車需要が高く、継続した運営が求められる。

全体総括

当該施設は黒字経営であり、全国の類似施設と比較しても収益性の高い施設である。利用者の大部分は近隣商業施設や駅の利用客であることから駐車需要も高く、今後も駐車場機能が必要である。
 また、支出面では、設備の維持補修や修繕積立金、公債費の償還に毎年一定の額を要する。それら支出面を勘案しても当該施設は収益性が非常に高い状況にあるが、必ずしも市営である必要はないことから、今後は将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、収支状況を注視しながら、民間による経営が可能な場合には、民間への貸付等を含めた施設のあり方を検討していく。

投資・財政計画 (収支計画)

(単位:千円, %)

区 分		年 度		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
収 益 的 収 入	1 総 収 益 (A)	298,341	245,609	780,990	235,155	234,064	232,979	231,901	230,830	229,765	228,706	227,654	226,608		
		(1) 営 業 収 益 (B)	296,606	244,084	237,314	234,180	233,089	232,004	230,926	229,855	228,790	227,731	226,679	225,633	
		ア 料 金 収 入	296,606	244,084	237,314	234,180	233,089	232,004	230,926	229,855	228,790	227,731	226,679	225,633	
		イ 受 託 工 事 収 益 (C)													
		ウ そ の 他													
		(2) 営 業 外 収 益	1,735	1,525	543,676	975	975	975	975	975	975	975	975	975	
		ア 他 会 計 繰 入 金													
	イ そ の 他	1,735	1,525	543,676	975	975	975	975	975	975	975	975	975		
	2 総 費 用 (D)	165,902	205,803	341,472	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	169,000	
		(1) 営 業 費 用	153,925	192,303	327,973	156,015	156,294	156,819	156,922	157,000	157,000	157,000	157,000	157,000	
		ア 職 員 給 与 費													
		ウ ち 退 職 手 当													
		イ そ の 他	153,925	192,303	327,973	156,015	156,294	156,819	156,922	157,000	157,000	157,000	157,000	157,000	
		(2) 営 業 外 費 用	11,977	13,500	13,499	12,985	12,706	12,181	12,078	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	
ア 支 払 利 息		1,530	1,260	985	985	706	181	78							
ウ ち 一 時 借 入 金 利 息															
イ そ の 他	10,447	12,240	12,514	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000			
3 収 支 差 引 (A)-(D) (E)	132,439	39,806	439,518	66,155	65,064	63,979	62,901	61,830	60,765	59,706	58,654	57,608			
資 本 的 収 入	1 資 本 的 収 入 (F)														
		(1) 地 方 債													
		ウ ち 資 本 費 平 準 化 債													
		(2) 他 会 計 補 助 金													
		(3) 他 会 計 借 入 金													
		(4) 固 定 資 産 売 却 代 金													
		(5) 国 (都 道 府 県) 補 助 金													
		(6) 工 事 負 担 金													
	(7) そ の 他														
	2 資 本 的 支 出 (G)	16,176	16,446	16,721	17,000	17,284	5,906	6,008							
		(1) 建 設 改 良 費													
		ウ ち 職 員 給 与 費													
		(2) 地 方 債 償 還 金 (H)	16,176	16,446	16,721	17,000	17,284	5,906	6,008						
		(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金													
(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金															
(5) そ の 他															
3 収 支 差 引 (F)-(G) (I)	△ 16,176	△ 16,446	△ 16,721	△ 17,000	△ 17,284	△ 5,906	△ 6,008								

